

<ヤマブキと道灌伝説>

一重のヤマブキは鮮やかな黄色の花弁、おしべ、めしべの間にガクの緑が見えてコントラストが鮮やかです。ところで、ヤマブキは実を付けないと言われていて、私もずっとそう思ってきました。これは道灌伝説にある「七重八重はなは咲けども山吹のみ(実)の一つだに無きぞかなしき」(後拾遺集)からきているようです。ところが調べてみると実の付かないのは八重のヤマブキとのことです。

(道灌伝説)太田道灌(室町時代の武将)が鷹狩に出かけた折に俄か雨に会い、近くの農家に立ち寄って蓑(みの)を所望した。ところが農家の娘(紅血)は何も言わずに一輪のヤマブキを差し出した。花の意味を知らずに無礼ととった道灌は怒って帰ってしまった。後に「貧しくてお貸しする蓑も無いのです」ということを伝えるため先の歌になぞって紅血がヤマブキを差し出したことを知った。大層恥言った道灌はその後、歌の道を志したという。このような話が江戸時代の「常山紀談」(湯浅常山著)に書かれています。



<ヤマブキ>

<キンラン、ギンラン>里山の春には是非見たい花のひとつにキンランやギンランがあります。幸いにもビオトープの周りの雑木林にありました。黄色い花は1cmに満たない大きさですが30~50cmに伸びた茎の天辺に10個ほどの花の付いたような株は見事です。白い花のギンランは丈も10~20cmと小ぶりで花数も少なく目立ちません。それだけに見つけたときの喜びがあります。ビオトープではユキモチソウの近くにひっそりと一株だけ咲いています。



<キンラン>

<シオカラトンボ>池には写真のようにガマ(蒲)の緑が目立つようになりました。コウホネも昨年よりは殖えたような気がします。ビオトープのある斜面の下の遊水地ではカエルたちが日々大合唱をされていて、上まで聴こえてきます。一方、写真の池にも数匹が鳴いているのですが足音を聴きつけるとピタッと鳴き止みなかなか姿を捉えることができません。そんな中で



<ギンラン>



ギンヤンマやシオカラトンボを見かけるようになりました。左のシオカラは気のせいかな夏のものより細いように見えますね。(文と写真: 松本正勝)